

## 組織活動通じた女性登用に期待

泉南市・立道智恵さん

「井の中の蛙にならず、他地域のことも学び、自身の考え方をアップデートしていきたい」と立道さん



## 農家と地域住民の交流に尽力 女性協で情報交換を活発に

豊中市・高島邦子さん

「地域の人々に農業の魅力を知ってもらうことが農地保全にもつながると考えています」と話すのは、今回の改選で豊中市農業委員として4期目を迎える高島邦子さん(75)。市内の学校給食の残りと街路樹の剪定枝から作った堆肥の販売や、市民を対象とした農業体験の実施などに取り組みNPO法人「花と緑

のネットワークとよなか」の代表理事も務めている。農業委員に就任したきっかけは、同NPO法人の事務局長から団体推薦を受けてみないかと声を掛けられたこと。担当区域の農地パトロールでは、課題を抱える農地をどうすれば保全できるのかを常に意識し、自分のできる手助けを考えているとい

う。

また、都市農業と市民を繋ぐ活動にも注力しており、同NPO法人が運営する農園での収穫体験や、地域の小学校や農業者と連携して田植えから稲刈り、精米、試食までを体験する「学校の米作り支援」などを企画し、子どもたちが農業に触れる機会づくりも行っている。今年3月に設立された「おおさか農業委員会女性協議会」では、副会長に就任。高島さんは「協議会が、市町村や府県の枠を越えて委員同士が交流し、情報

交換できる場になってほしい」と期待を寄せる。今後は、市民だけでなく市外へも活動の輪を広げ、より多くの人に豊中市農業の魅力を発信していきたいと意欲を見せる。

(林佑)



後方に大阪国際空港の進入灯がある「とよぴー農園」で

泉南市の立道智恵さん(41)は、約108<sup>ア</sup>で西洋野菜や水稲などを生産している。約20年前、亡くなった祖父の後を受けて姉妹で農園「ベジフルハウス by E FUEL」を始め、周辺で耕作が難しくなった所有者から農地を借り受けながら経営規模を拡大してきた。

有機JAS規格で認められた資肥料を活用し、農薬・化学肥料の使用を極力控えた栽培に取り組んでおり、生産した野菜は消費者への直接販売や飲食店などに出荷するほか、ふるさと納税の返礼品として詰め合わせを届けている。

令和5年度の改選で農業委員

に就任し、2期目を迎えた今回の改選で会長職務代理者に就任した。委員となつてからは地域の農地の見方が変わり、小さな変化にもよく気付くようになったという。また、地域計画策定に係る集落座談会への出席も経て、自身の営農する担当地域と他地域との実態や現場課題の差異にも触れ、地域農業の将来を考える機会も増えた。

地域の新たな担い手を育成するNPO法人「泉南農業塾」では令和5年秋から講師を務め、7年夏に塾長に就任。栽培指導だけでなく、農業委員として農地のあつせんなどの相談にも応じている。

女性委員については、各々の生活経験を背景とした新たな視点が期待できるのではないかと評価。また、今年3月創設の「おおさか農業委員会女性協議会」では副会長に就任し、組織として活動することで個人では難しい取り組みを動かす力になることを期待している。

今後については「現在の女性委員の活動の活性化とともに、女性がさらに農業委員会に入りやすい環境をつくることも重要な役割として取り組みたい」と抱負を語った。

(沼田)